

OIST発企業に出資

公庫、プロテイントモグラフィーに タンパク質解析を受託



沖縄振興開発金融公庫（譜久山富則理事長）は25日、沖縄科学技術大学院大学（OIST）発のベンチャー企業・沖縄プロテイントモグラフィー（恩納村、亀井朗社長）に8千万円を出資した。同社は、OISTの教授が開発したタ

ンパク質分子の構造や変化を立体的に可視化できる特許技術を独占利用し、創薬メーカーなどから解析業務を受託している。出資金で海外への営業強化などに取り組み。

同社はOISTのウルフ・スコグランド教授が開発した「タンパク質等の分子構造3次元可視化技術（プロテイントモグラフィー法）」と専用の高性能電子顕微鏡を独占利用できる契約を交わしている。

同技術は、タンパク質を結晶化せずに分析できるため、従来より時間を短縮でき、分析できるタンパク質の種類も増えるという。

昨年6月の会社設立から国内の製薬会社などから分析業務を受注している。出資金を活用して、米国やヨーロッパのメーカーにも営業活動を広げる。

亀井社長は「海外からも注目を集めている技術。受注を獲得して経営基盤を安定させたい」と述べた。

沖縄公庫は2002年から成長性の高い新規ビジネスに出資しており、合計で55件、18億800万円となった。

出資を発表する沖縄公庫の砂川則夫新事業育成出資室長（左）と沖縄プロテイントモグラフィーの亀井朗社長（25日、沖縄公庫本店）

沖縄P.T.に8000万出資

沖縄公庫 抗体医薬品の開発促進

沖縄振興開発金融公庫（譜久山富則理事長）は25日、沖縄科学技術大学院大学（OIST、恩納村）発

の第1号ベンチャー企業である沖縄プロテイントモグラフィ（沖縄P.T.、うるま市、亀井朗社長）に対し、新事業創出支援として8千万円を出資した。昨年6月に設立した沖縄P.T.は、OIST構造細胞生物学ユニット代表のウル

フ・スノグランド教授が開発した、タンパク質の分子構造を3次元で可視化する世界で唯一の技術（プロテイントモグラフィ法）を事業化し、関連特許の独占利用について長期契約するバイオベンチャー。難治性領域での効果が期

待され、副作用も少ない「抗体医薬品」の世界的な開発促進に向け、製薬会社や大学など研究機関からタンパク質の構造解析を受託する。

沖縄P.T.は今回の増資で資本金、資本準備金をともに8千万円に増強する。

海外製薬会社などへの営業活動や、研究体制の強化に向けた事業運営費に充てる。

亀井社長は「抗体医療の最先端である欧米のバイオ企業に、われわれの技術を

紹介するプレゼンテーションを実施していく」とグローバルな展開に意欲を示した。

沖縄公庫は2002年度から新事業創出促進出資制度を実施しており、これまでの実績は55件、18億800万円となった。

新事業育成出資室の砂川則夫室長は「OISTから技術移転を受けた初のベンチャー企業として、沖縄の自立型経済の発展に資する成長可能性が高い」と出資理由を説明した。